

### ボールを持たない動きに着目したボール運動の教材化

小学校のボール運動の教材化でポイントになるのは、ボール運動領域で身に付けるべき内容のどの部分に着目し、絞った形で簡易教材を作れるかにある。近年学習指導要領において、ボールを操作する技能の他に「ボールを持たない動き」が内容として位置づけられた。つまり、ボールを投げ一捕る技術を用いて行うボールを持っている人の動きのだけでなく、ボールをもらいやすい位置に移動する等の持っていない人の動きも習得内容として意識することが強調されているのである。

今回、中学年である3年生対象のゴール型教材「ぬきっこゲーム」は守備の人をぬいて上手くボールをつないでいくことに焦点をあてたゲームである。攻める人(2名)はタグを身に付け、ディフェンスゾーンにいる守備の人(2名)にタグをとられないよう、相手をひきつけた素早く移動して逃げたりしながらゴール前まで移動する。こういった攻守の駆け引きを中心としたゲームである。攻める側がボールを使用しないので、鬼ごっこのような動きになるが、これはボール運動でみられる動きを抜き出して課題とした教材である。

小学校中学年という発達段階を考えると、大きなゲームを実施するよりも、プレーする人数の少ない教材を繰り返し実施し、ひとりひとりが十分に動き、ふりかえることのできる場を保障することが習熟する上で重要であると考えられる。今回の「ぬきっこゲーム」では、授業の中で複数回プレーすることができ、また、子ども達は自分のプレーできる機会を大事に生かしよりよい動きを追及できていたように思う。特に、一人の人が行くと見せかけて2名の守備の人を引き付けて、その間にもう一人が空いたスペースから走ってぬいていく等の知恵を使った作戦が実施できていたことが大きな収穫であったろう。

今回はギガスクール構想の関係で多くのタブレットが授業で使えるようになったこともあり、交代でプレーの様子を動画に撮り、振り返りに使用していた。ICTを使用した授業では時間配分が難しいが、今回の授業では短く時間を決め動画をみて自分達の動きの振り返りができていた。2人でひとつの画面を見ながら学習カードに振り返りを書くのであるが、3年生でも要領よく活動できているなど感心した。活動のふりかえり内容については、まだ、ひとりひとりの書く内容がまちまちであり着眼点が曖昧なものもあったが、各時間の振り返りの良いコメント等を共有していくことで、時間を追うごとに振り返りの内容が充実していくように思う。出てきたコツをホワイトボード前で共有化し整理する際に、すぐできる簡単なものと難しいが上達できるものに分けて実施していた点も良かった。子どもによって選ぶことができるし、難しいコツも示すことで次への課題が明確になるだろう。

その他、今回の佐藤秀恒先生の授業で良かったのは、1時間の中で多様な学習内容を上手く配置し時間配分できていたことである。グループで活動する、動画をとる人の役割分担、動画を振り返りながら学習カードに記入する時間、意見交換をする時間とメリハリをつけ、無駄な時間なく活動が行えていた。豊かで多様な活動のできる体育の授業につながっていたと思う。